

# 第1学年〇組 国語科学習指導案

令和2年〇月〇日（〇）第〇校時  
活動場所 〇階 1年〇組教室  
生徒数 男子〇名 女子〇名  
授業者 〇〇 〇〇

## 1 単元名・教材名

環境守り隊になって意見を伝えよう 「幻の魚は生きていた」

## 2 単元について

### (1) 教材観

教材文「幻の魚は生きていた」は、クニマスを題材にその絶滅、発見、維持、復帰について書かれており、事実と意見の関係に注意し、内容を考えることのできる説明的文章である。発見に実際に関わった筆者による文章のため臨場感がある。具体的な魚の話を、写真や表を読み取りながら謎解き風に進めることができる教材であることから、あまりなじみの少ない環境問題の話題に対しても興味をもって学習に取り組めると考える。

また、本教材は、具体的な表現と抽象的な表現が効果的に使われており、中心となる文・付加となる文の読み取りがしやすい文章となっている。これにより、何がキーワードとなる語句・文なのかを考えていきやすく、要点をまとめやすい構成となっている。したがって、序論・本論・結論ごとの要点をつかみ、要旨を捉えるために適した教材である。

### (2) 生徒の実態

1学期は「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」で、説明的文章の段落の構成や役割について学び、説明の要点や筆者の主張はどのようなところに書いてあるのかを考えた。2学期は「シカの『落ち穂拾い』」で、図表を読み解きながら、図表を用いることの効果話し合った。また、事実（具体的な部分）と意見（抽象的な部分）の読み分けをおこなう中で、「ちょっと立ち止まって」で学習した中心的な部分と付加的な部分の読み分けについての再確認をしているが、まだ読み分けるのが困難な生徒が多い。

アンケートによると、「説明的文章と文学的文章のどちらが好きですか」の質問に説明的文章と答えたのが34人中9人であった。説明的文章には、普段会話の中で用いることがない語彙が使われていることで、読むことに対し、苦手意識を持っていると考えられる。中には「点数がとりやすいから」「気持ちを読み取るよりは、分かりやすい」という消極的な理由の生徒もいる。授業の中では、問題提起の答えの根拠を、文章を読み取った中から探し出すことができる生徒がいる一方で、教科書から根拠を探すことなく、自分なりの解釈をしてしまう生徒も見られる。

なお、説明的文章の要約の経験はなく、「長い文章を簡潔にまとめられますか」の質問には34人中25人の生徒が「いいえ」と答えている。

自分の意見を書くにあたっては、既習事項としては文学的文章の感想を書くという活動がメインだった。自分の経験や見聞したことを根拠に意見文を書く活動は中学校では初めてである。

### (3) 指導観

本単元で身に付けさせたい「読むこと」に関する力は「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」（読むことア）「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする」（読むことオ）である。単元のゴールを「環境守り隊になって意見を伝えよう」と設定し、筆者の主張に対する自分の考えを意見文として表現する。そのためには筆者の考えやその考えに行き着くに至った経緯を正確に読み取り、今までの学びを生かしながら要点を押さえ、文章の要旨を捉えていく必要がある。ゴールイメージを持たせた必要感のある学

習のため、書くことが苦手な子どもたちも主体的に学習に臨むことができると考える。

第一次では、序論・本論・結論ごとに字数制限のある要約をし、それぞれの要約した内容をつなげると文章の要旨ができあがるという達成感を味わわせたい。

第二次では、要旨を捉えた中で分かった筆者の考えと自分の意見を対比し、意見文として表現することで、読み取りが深まり、学習が定着したことを実感させたい。

### 3 研究の視点

#### (1) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりについて

単元で身に付けさせたい力を明確にし、そのために必要な言語活動を設定している。その際に、学習活動に必要感をもたせることで主体的に取り組めるようにしている。

また、生徒が見通しをもって学習活動に取り組めるよう、学習のゴールはどこか、どんな目的や意図があるかを、単元計画を立てるときに共通理解できるようにしている。

学び合いの場面でも、目的意識や必要感をもたせ、話し合いや教え合いをおこなっている。また、答えだけでなく、「なぜそうなるか」という根拠の部分大切にすることで深い学びにつながるようにしている。

#### (2) 「まとめ」「振り返り」の充実について

「まとめ」は「課題」に対して、板書のキーワードを使いながら、教師が学んだことの整理や確認をし生徒と共に行っている。1時間の思考の流れを板書に残すことでまとめ、スムーズにできるようにしている。

「振り返り」では振り返りカードを使用している。理解の状況の自己判断、取組の姿勢・態度の自己判断、学びの過程の自己判断、理解の捉え直し、満足感や充実感等の味わい直し、次の学びへの期待・思いや願いといった観点から自由記述を行うことで、本時の学びを自分の学びとして深め、次の学びへとつながるようにしている。

### 4 単元の目標

- (1) 文章で読んで理解した筆者の主張に対して本や映像資料の中から話題を決め、自分なりの考えを広げようとしている。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 筆者の考えを基に、人間の生活と生き物や環境との関係について考え、意見文を書くことができる。  
(書くこと)
- (3) 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係に着目しながら、文章の要旨を捉えることができる。  
(読むこと)

### 5 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	エ 読む能力
単元の評価規準	・文章を読んで理解した筆者の主張に対して本や映像資料の中から話題を決め、自分なりの考えを広げようとしている。	・筆者の考えを基に、人間の生活と生き物や環境との関係について考え、意見文を書いている。〈ウ〉	・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。〈イ〉

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習活動における 具体の評価規準</p>	<p>①本や映像資料から自分の意見を持ち、考えを広げようとしている。</p> <p>②要旨を捉えるために積極的に文章を読み、要点を捉え、要約しようとしている。</p> <p>③自分の考えを明確にするために、(意欲をもって)文章の要旨を捉えようとしている。</p>	<p>①文章の要旨を捉え、200字で書いている。</p> <p>②書く内容の中心が明確になるように、意見文の構成を考えている。</p> <p>③根拠を明確にししながら自分の考えが伝わる意見文を書いている。</p>	<p>①文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見を読み分けている。</p> <p>②文章の要点に着目して要約している。</p>
---	---	--	--

## 6 指導と評価の計画

	主な学習活動	学習内容	評価規準 評価方法
1	<p>○単元の学習内容を知る。</p> <p>〔単元の学習課題〕 筆者の主張に対する意見を述べるためにはどうすればいいのだろうか</p> <p>〔学習課題〕意見を伝えるには、どうすればよいだろうか。</p> <p>○生命の絶滅について知っていることを話し合う。 ○映像資料、並行読書ができる本の紹介をする。 ○要旨を捉えるための手立てを知る。</p> <p>〔まとめ〕意見を伝えるには、筆者の主張である要旨を捉え、それに対しどのように考えるかを伝えよう。</p>	<p>○単元の見通し</p> <p>○要約の仕方 ○要旨の捉え方</p>	<p>アの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの内容の考察</li> <li>課題への取組の様子や態度の観察</li> </ul>
2	<p>〔学習課題〕要旨を捉えるために文章構成を把握しよう。</p> <p>○序論・本論・結論に分ける。 ○4人グループで序論の要点を二つ探す。 ○本論を二つに分ける。</p> <p>〔まとめ〕要旨を捉えるためには文章構成を把握しそれぞれの中心となる文に着目して要約したものをつなぎ合わせるといい。</p> <p>○序論を40字以内で要約する。</p>	<p>○中心となる文と付加の文 ○要約の仕方</p>	<p>アの②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題への取組の様子や態度の観察</li> </ul> <p>エの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの内容の考察</li> </ul>
3	<p>〔学習課題〕要旨を捉えるために、本論1の中心となる文を探し、要約しよう。</p> <p>○本論①の中心となる文を探す。 ○全体で中心となる文を一つに絞る。 ○本論①を30字以内で要約する。</p> <p>〔まとめ〕要約するには、中心となる文（要点）を探す。 中心となる文を見つけるには、問いと答えに着目する。</p>	<p>○中心になる文と付加の文 ○要約の仕方</p>	<p>アの②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題への取組の様子や態度の観察</li> </ul> <p>エの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの内容の考察</li> </ul>
4 (本時)	<p>〔学習課題〕要旨を捉えるために、本論2を要約し推敲しよう。</p> <p>○本論②の中心となる文を探す。 ○全体で中心となる文を二つに絞る。 ○本論②を50字以内で要約する。 ○ペアで要約した文を推敲する。</p> <p>〔まとめ〕推敲することによって、よりよい要約ができる。 文体の統一、主語と述語の対応、キーワードが入っているという観点に基づき推敲するとよい。</p>	<p>○中心になる文と付加の文 ○要約の仕方 ○推敲の仕方</p>	<p>アの②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題への取組の様子や態度の観察</li> </ul> <p>エの②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの内容の考察</li> </ul>
5	<p>〔学習課題〕結論を要約し、要旨を捉えよう。</p> <p>○結論の要点を探す。 ○結論を80字で要約をする。 ○要旨を捉える。 ○筆者の考えに線を引く。 ○意見文の書き方を知る。</p> <p>〔まとめ〕要旨を捉えるには、筆者の主張がどのような道筋で書かれているかを確認し、序論・本論・結論それぞれの中心となる文に着目し要約したものをまとめるとよい。</p>	<p>○要約の仕方 ○要旨の捉え方 ○意見文の書き方</p>	<p>アの②③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題への取組の様子や態度の観察</li> </ul> <p>ウの①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの内容の考察</li> </ul>

6	<p>[学習課題] 筆者の主張に対する自分の考えを意見文で伝えよう。</p> <p>○人間の生活と生き物や環境との関係について考えさせる。</p> <p>○意見文を書く。</p> <p>○読み合い、相互評価を行う。</p> <p>[単元のまとめ]</p> <p>筆者の主張に対する意見を伝えるためには、まず筆者の主張である要旨を捉える。</p> <p>それに対し、自分がどう考えているかを資料等に基づき述べていくとよい。</p>	<p>ウの③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文の内容の考察</li> <li>・課題への取組の様子や態度の観察</li> <li>・自己評価カードの内容の考察</li> </ul>
---	--	---

## 7 本時の学習

### (1) 目標

要旨を捉えるために積極的に文章を読み、要点を捉えようとしている。

(関心・意欲・態度)

文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要約することができる。

(読むこと)

### (2) 展開

学習活動	学習内容	評価及び指導上の留意点	時間
1 本時の学習のめあてを知る。 ・目標	○要約の意義	・本時の学習のめあてを示し、単元の見通しを立てさせる。	3分
<b>要旨を捉えるために、本論2を要約し推敲しよう。</b>			
2 本論2の問いを確認する。	○問いの探し方	・序論・本論①の要約で確認した内容は模造紙に書いておき、掲示する。	5分
3 要点を2つ探す。	○要点の探し方	〈具体の評価規準〉ア② 〈評価方法〉 ・課題への取組の様子や態度の観察 〈手立て〉 ・前時のプリントや板書をヒントにするように伝える。	13分
4 全体で中心となる文を確認する。	○中心となる文 ・筆者の主張 ・抽象的な表現 ○付加の文 ・中心となる文の補足 ・具体例 ・例示		
5 要約をする。	○要約の仕方	〈具体の評価規準〉エ② 〈評価方法〉 ・回収したワークシートの要約部分 〈手立て〉 ・机間指導の際、手をつけられていない生徒にはヒントカードを渡す。	7分
6 ペアで要約文を推敲する。	○推敲の視点 ・文体の統一 ・主語と述語の対応 ・キーワード	・推敲の視点を確認し、視点に基づき、ペアで考えを伝え合えるようにする。	12分
7 推敲した要約文を発表する。		・全体で推敲した要約文のよさを共有できるようにする。	7分
8 本時のまとめをする。 ・まとめ			3分
<b>要約を推敲するには、文体の統一、主語と述語の対応、キーワードが入っているかという観点に基づいて行うとよい。</b>			
9 振り返りカードを書く。 ・振り返り		・ワークシートと振り返りカードを回収し、要約ができたかを確認する。	
前回より要約がスムーズにできた。推敲したときにキーワードは入れられていたが、文体の統一ができていなかったのので、今回は気をつけたい。			

幻の魚は生きていた 中坊徹次

〈目標〉 要旨を捉えるために、

本論2を要約し推敲しよう

本論2の問い

なぜ、クニマスは西湖で生きていたのか。

要点は？

中心となる文：筆者の主張・抽象的  
付加の文：中心文の補足・具体例

★クニマスの卵が：譲渡された

・（その他の意見）

・（その他の意見）

★移植先の西湖は：備えていたのである

要約の仕方

・要点を（中心文）を入れる

・具体例を入れない

・内容を簡潔にまとめる

推敲のポイント

・文体の統一がされているか

・主語と述語が対応しているか

・キーワードが入っている

まとめ

要約を推敲するには、文体の統一、主語と述語の対応、キーワードが入っているかという観点に基づき行おうとよい。